

## 1 研究主題

**「教わる」から「学びとる」授業の創造  
～試行錯誤する学びを中心として～**

## 2 主題設定の理由

## (1) 社会の要請から

現代の子どもたちが活躍するであろう未来の社会は、AI技術の進歩やグローバル化等、変化の激しい世の中になることが予測されている。そのような社会を生きる子どもたちに必要となるのは、身の回りに起こる様々な問題に自ら向き合い、その解決に向けて多様な他者と協調しながら解決策を導き出していく力である。

新しい学習指導要領において、授業改善の取組の一つとして挙げられているのが、「主体的・対話的で深い学び」の実現である。教師が「アクティブラーニング」の視点からの授業改善に取り組み、子どもたち一人一人の学びを確実にしていくことが求められている。

## (2) 学校教育目標から

本校の学校教育目標である大きな3つの柱は、「自律…自ら考え判断し、主体的に行動する」「尊重…違いを理解し、他者を尊重する」「協働…他者と協力して課題を解決していく」である。また、学校経営のテーマを3C「Challenge（挑戦する）」「Cooperate（協働する）」「Change（学び続けて変わる）」と掲げ、学校総体となって、「主体的・対話的で深い学び」の実現において、授業づくりに取り組んでいる。教師が「教える」授業から、子ども自ら「学びとる」授業を目指し、子どもたちが自分事として課題を捉え、状況や立場が違う他者と協働しながら、納得解を見出していくという学び方は、学校教育目標の「自律」「尊重」「協働」の育成につながると考える。

## (3) これまでの研究から

本校はこれまで、「主体的・対話的で深い学び」の実現のために、教師自ら「対話」とは何かを捉えなおし、授業改善に取り組んできた。「対話」を生み出し、「対話」を支えるための、ICTの効果的活用について考え、授業実践を重ねてきたことで、児童の学びが活性化し、より主体的なものへと変化してきた。一方、教師間で「学びとる児童の姿」についての共通認識が不十分であるという課題も見えてきた。これまでの研究の成果を活かしつつ、新たに見えてきた課題解決のために、引き続き児童が『「教わる」から「学びとる」』授業の創造を目指し、さらなる授業改善に取り組んでいく。

## 3 研究テーマについて

## (1) 主題について

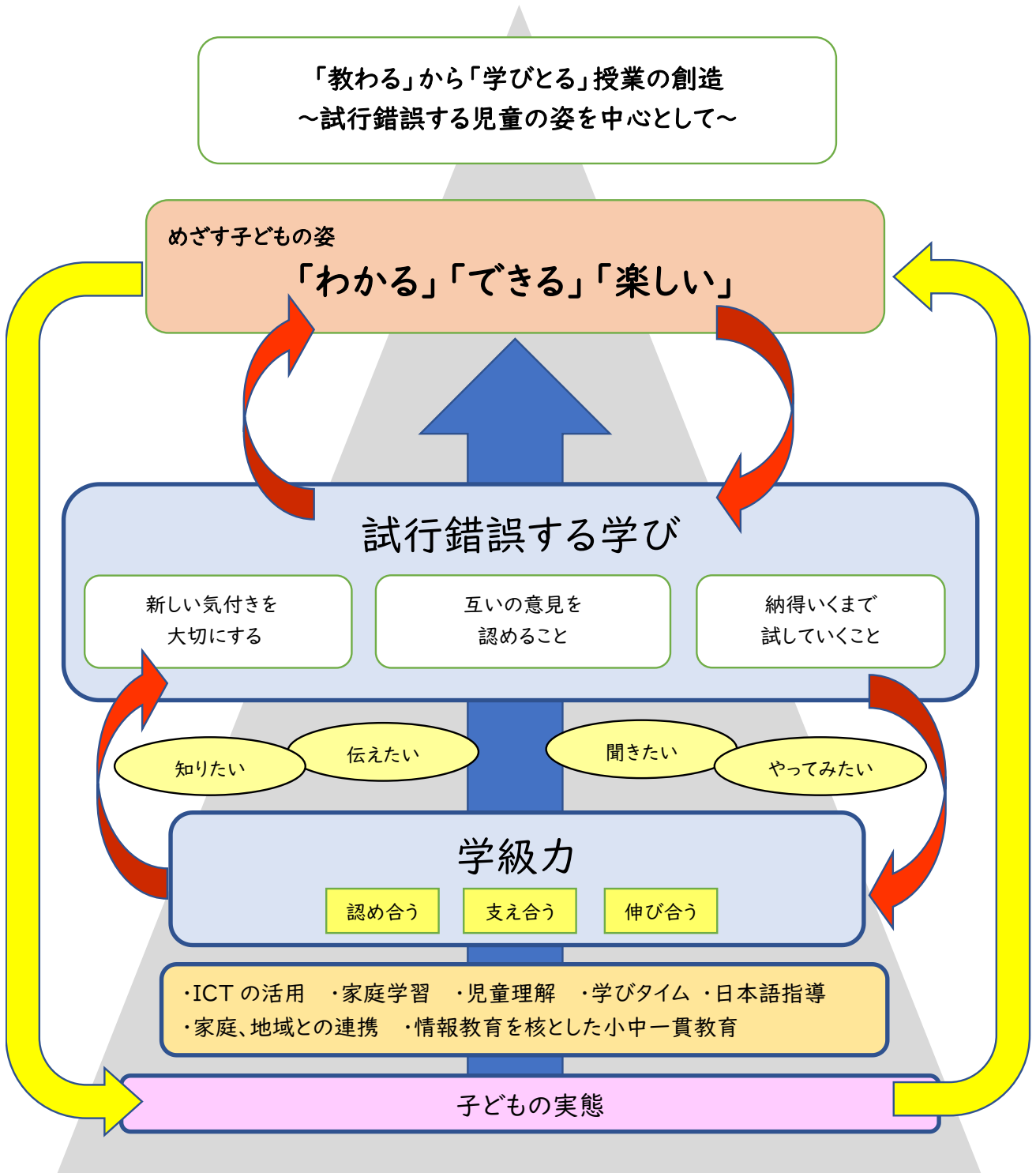
学習指導要領では、学習の基盤となる力として、「言語能力」「情報活用能力」「問題発見・解決能力」の3つが示されている。これらを踏まえ、熊本市教育委員会から「主体的・対話的で深い学び」の実現のために、児童が「学びとる」授業への転換について示されている。本校においても、児童が主体的に課題に取り組み、自分の思いや考えを表現し、伝え合い学び合うような、「学びとる」授業をめざしていく。

## (2) 副題について

授業改善の視点として示されている「試行錯誤する学び」の実現には、学習内容の一方的な教授ではなく、児童同士が様々な価値観を交流し合い自分の考えを広め深める活動を十分に取り入れる必要がある。また、授業者が児童に身につけさせたい力や指導事項を明確にもち、意図的に対話が生まれる場を設けることにより、質の高い学びが生まれることになると考える。本校では、試行錯誤する学びを支える要素として、新しい気付きを大切にすること、互いの意見を認めること、納得いくまで試していくこと

の3つを掲げていく。この3つの力を高めるためには、児童が安心して過ごし、学習に取り組むことができるような学級の雰囲気が出発点として必要である。児童が互いに認め合い、支え合い、伸び合っていくことができる学級をまずは醸成していくことが必要であり、それらは授業を中心につくりあげられると考える。

#### 4 研究構想図



## 5 研究の内容

### (1) めざす児童の姿

納得いくまで粘り強く学習活動に参加し、友達の考えを聞いたり、自分の考えを表現したりすることで、「わかる」「できる」「楽しい」と感じることができる児童

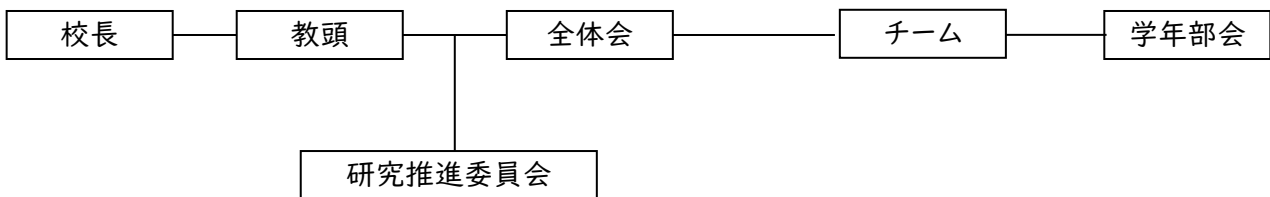
### (2) 研究の視点

- ① 試行錯誤する学びを中心とした授業づくり
- ② 子どもが安心して楽しく学習できる学級づくり

### (3) 研究の進め方(年間の大まかな流れ)

- ① 本校の実態、児童の実態から研究テーマを設定する。
- ② 研究テーマをもとに、教師の研修したい教科やニーズを共有し、それらをもとにチームを作成する。
- ③ 各チームでテーマを決め、授業実践を積み重ね互いに学び合う。(教科部会)
- ④ 研究授業を行い、今後の授業改善につなげる。
- ⑤ 各チームで実践発表を行い、実践の成果と課題を全体で共有する。
- ⑥ 本年度の反省をもとに、次年度の志向を持つ。

## 6 研究の組織



<研究推進委員会> 校長・教頭・教務・研究部

- ① 校内研究の内容や方法の計画・立案
- ② 研修会・授業研究会を計画・運営
- ③ 研究資料の収集や提供、児童アンケートの集計・分析(学年)

<教科部会>

- ① 研究の具現化(実態把握・つきたい力・具体的実践など)
- ② 日頃の授業実践や研究授業についての話し合い